



平成25年度助成事業

当事者が当事者のために作った 「ピアサポートグループマニュアル」



団体名：特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構
事業名：精神障害者のピアサポートグループ普及事業

助成テーマ：高齢者や障害児・者などが地域で普通の暮らしをすることを支援する事業

助成区分：全国的・広域的ネットワーク活動支援事業

助成金額：8,570千円

ここに注目

- ◆当事者の方々が自分の経験を生かし、自分以外の当事者のための支援を行いました。
- ◆当事者の視点による丁寧な企画やピアサポートグループの交流により、ピアサポートグループの普及が期待されます。

事業の背景

- ◆精神障害をもつ方は病状以外にも人間関係で傷ついた経験から等から、医療や福祉サービスを利用できず、ひきこもりやニートとなり孤独な生活を送っているケースがあります。また、社会に出ている、精神障害に対する偏見のために孤独感を抱えて生活しているケースもあります。
- ◆このように孤独を感じている一方、精神に困難な経験のある数多くの当事者が、精神障害の経験を社会に還元したい、人の役に立ちたいと考えていることから、精神障害があってもひきこもっている方やニートとなっている方等を対象とした当事者が主体となっているピアサポートグループの普及活動に取り組まれました。

事業概要

- ◆当事者（企画委員）が、自らの経験をもとに自由な意見交換を行い「ピアサポートグループの進め方・立ち上げ方マニュアル」を作成しました。当事者自らが当事者のためにこのようなマニュアルを作成したことは先進的な試みでした。
- ◆全国交流会（ピアサポートフォーラム）は、全国から150人を超える参加者が集まり、全国の団体（当事者や支援者）と「顔が見える関係」を築くことができました。
- ◆マニュアルを作成した当事者（企画委員）が、ファシリテーターとしてサポートグループの立上げの為に全国の団体に複数回訪問しました。事前の全国交流会で「顔が見える関係」を築いていたためスムーズな支援を行うことができ、ネットワーク形成の成果がすばやく反映されていました。

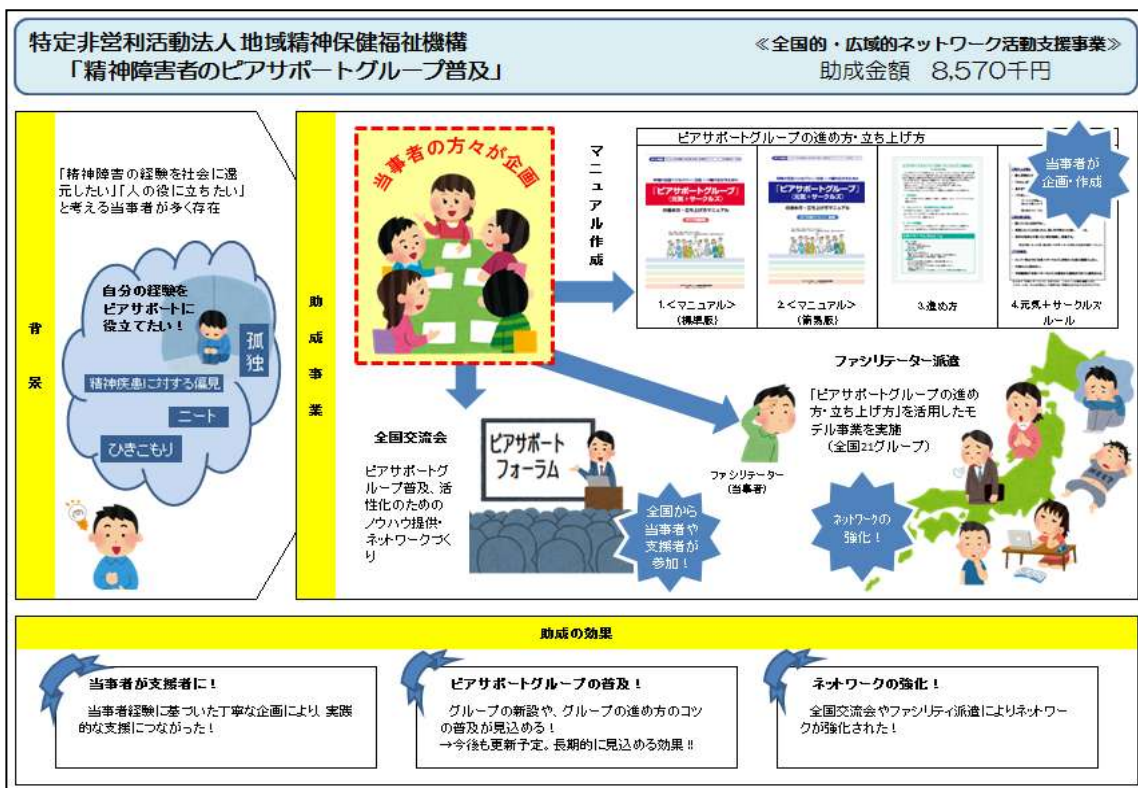
グループの成立過程・進め方・地域事情等の違いによる視点の相違に気づいたことにより、ファシリテーターである企画委員は「マニュアル」の再構成に取り組みました。また、マニュアル通りに進められないケースもあることから、今後も改定を行う計画となっています。



外部有識者のコメント

◆当事者が委員会を構成し、ピアサポート活動を立ち上げようとする全国 20 か所以上のグループを、委員がファシリテーターとして複数回訪問し、そこでの立ち上げ支援の経験を持ち寄って手引書の内容を検討するという、非常に精力的かつ丁寧な開発プロセスが踏まれていた。そして、その成果として、専門職や支援者主導ではない、また運動的な活動でもない、当事者が自身のリカバリーの経験を語り合うことに焦点化したピアサポート活動を立ち上げていくための、実践的な手引書が作成された。当事者主体、自己決定やエンパワメントという哲学の徹底、これに裏付けられた丁寧な活動、従来にはない画期的なアウトプットが高く評価された。

今後は、ピアサポート活動の情報が得られる環境づくりやファシリテーターの養成など、ピアサポートグループが各地で生まれていく環境整備に一層取り組まれることを期待する。



成果物

◆「ピアサポートグループの進め方・立ち上げ方マニュアル（啓発冊子）」、「ピアサポートグループの進め方・立ち上げ方マニュアル（ツールキット）」、シンポジウムチラシ、ポスター

お問い合わせ先

〒272-0031 千葉県市川市平田 3-5-1 トノックスビル 2F
特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構（呼称：COMmunity Mental Health & welfare Bonding Organization の頭文字をとって COMHBO「コンボ」）
電話：047-320-3870 HP アドレス：<http://comhbo.net/>